リレー放談（第５話）『『31 年間の診療放射線技師生活とこれからのすべきこと』

23 期（U 組）　富田博信

私は本校卒後 31 年間、診療放射線技師として済生会川口総合病院での勤務を続けてきました。この間、さまざまな経験を積むことができました。最初の 10 年間は科内ローテーションで勤務し、幅広い診療領域に携わることができました。その後、CT 室の係長として 10 年間働き、高度な技術と知識を磨く機会を得ました。更に、技師長としての 10 年間は、チームのまとめ役として、組織の運営や技術者の指導に携わる責任を果たしました。
長い間同じ病院で働くことは、医療への貢献を実感する機会でもありました。患者さんとの信頼関係を築きながら、彼らの健康をサポートすることが使命であると感じています。また、下位の育成も重要な役割であり、若い技術者たちの成長を見守ることができました。彼らが成長し、より高いレベルの技術を持つ人材として社会に貢献することは、私にとっての喜びです。

さらに、学位の取得や学会発表、研究会活動、そして海外での発表という経験も得ることができました。これらの活動は、新たな知識や技術を吸収し、専門領域の広がりをもたらしてくれました。特に海外での発表は、異文化や先進的な技術に触れる機会となり、私の成長に繋がりました。また、現在まで日本診療放射線技師会の理事を 6 期継続しており、新たな活動の場を得ることができました。この役職を通じて、診療放射線技師の地位向上や技術の発展に向けた活動に尽力しています。

本年 4 月より、帝京大学での教員としても活動を開始しました。これからは、自身の病院勤務経験を活かし、未来の診療放射線技師の育成に力を注ぎ、彼らがより質の高い医療を提供できるようサポートしていきまたいと思っております。
最後に、同窓生皆様におかれましては、益々のご活躍を心からお祈りいたします。今後とも宜しくお願い致します。